

街並みテクテク No. 16 : 鎌倉駅周辺 (2024-10-27)

参加者：碓貴臣、岸敦夫・美智代（夫妻）、後藤幸子、高野泰三郎、塚田浩、三木和幸、木村芳一（敬称略；計8名）

行程：鎌倉駅周辺 約6km

鎌倉駅→段葛→鶴岡八幡宮→源頼朝の墓→荏柄天神社→鎌倉宮→瑞泉寺→永福寺跡→覚園寺→鎌倉駅

・天気は曇り、気温は最高 20°C程度で、歩きやすい日でした。集合場所の鎌倉駅東口では多くの観光客が歩いており、外国人も目立ちました。

・人通りの多い小町通りを避け、真直ぐに伸びる段葛を通して鶴岡八幡宮に向かい、急な階段を上って、本宮をお参りしました。その後、八幡宮の雰囲気とはうってかわって、人通りの少ない、東方向の道を、高級住宅街を眺めながら歩き、源頼朝の墓（白幡神社の上、頼朝の持仏堂跡）、荏柄天神社（菅原道真公を祀る日本三大古天神の一つ）、鎌倉宮（護良親王終焉の地）とめぐりました。

・鎌倉宮に向かって右側の道を取り、瑞泉寺を目指しました。今まで何度も訪れた場所ですが、寺近くなると、今までになく人通りが少なく、また曇り空を背景に山の木々が鬱蒼としていたので、何か非常に神秘的な感じがしました。本寺は夢窓疎石が創建し、本堂の裏にある庭園は岩盤を削ったもので禅思想の影響を受けたとされています。

・鎌倉宮と瑞泉寺の間の二階堂に広大な永福寺（ヨウフクジ）跡があり、これは源頼朝が建立した、幻の大寺院と言われる浄土寺院で、発掘して建物の基壇や池が復元されていました。

・その後、鎌倉宮に戻り、宮に向かって左側の道を取り、奥まった覚園寺に向かいました。本寺は北條義時が建立したもので、鎌倉の寺院の中でも最も幽玄かつ静寂な宗教空間を形成していると言われています。地藏堂（黒地藏菩薩）、千体堂、やぐら、旧内海家（昔の暗い農家）、薬師堂（薬師如来、日光菩薩、月光菩薩、十二神将）を、静かな環境の中で参拝しました。

・覚園寺あたりで雨が降り出したので、帰りは鎌倉宮前からバスに乗り、駅に向かいました。懇親会は大船で行いました。 (木村芳一)



鎌倉駅前にて



鶴岡八幡宮



鎌倉宮



瑞泉寺（谷戸に広がる花の寺）の境内



瑞泉寺の庭園



旧永福寺（ヨウフクジ）の池と建物の基壇



覚園寺の前庭